

# くらしの中に北海道の花を

－切り花を長く楽しむための科学－

道総研 花・野菜技術センター 研究部 花き野菜グループ 主査（花き） 鈴木亮子

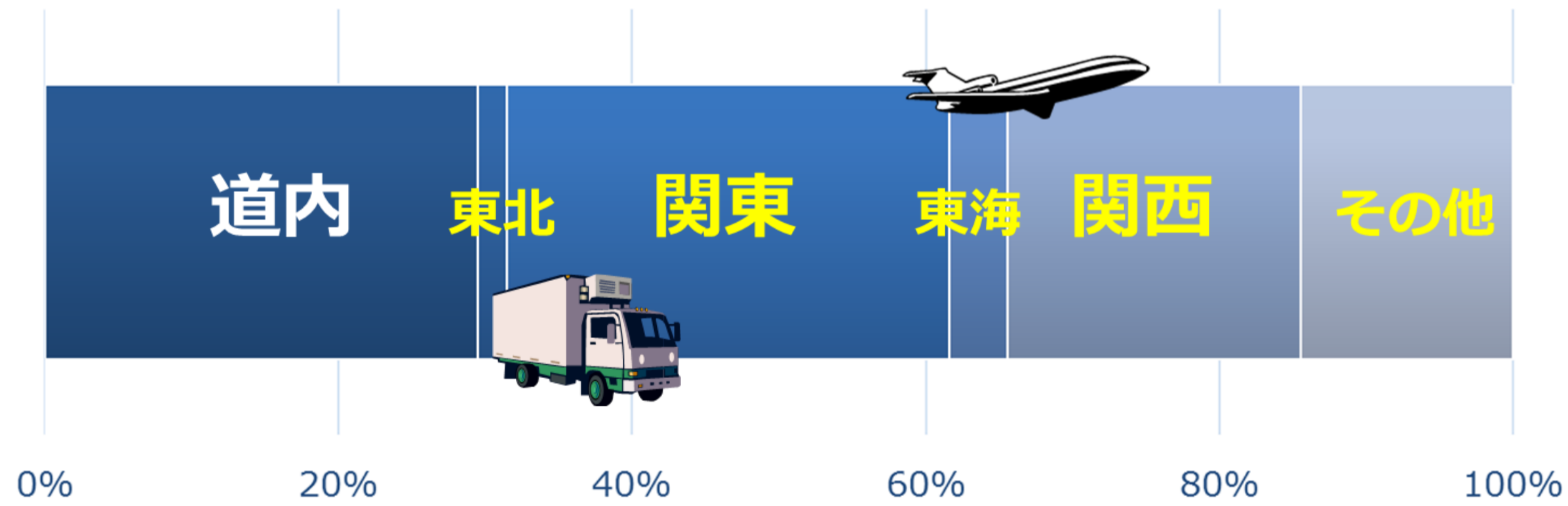
## 北海道は切り花の大産地

北海道の花と言えば花観光のイメージが強いかもしれませんが、実は切り花の大産地でもあり、スターチスは全国一、カーネーション、アルストロメリア、トルコギキョウは第3位の生産額を誇っています。



## 道産切り花は夏に大活躍

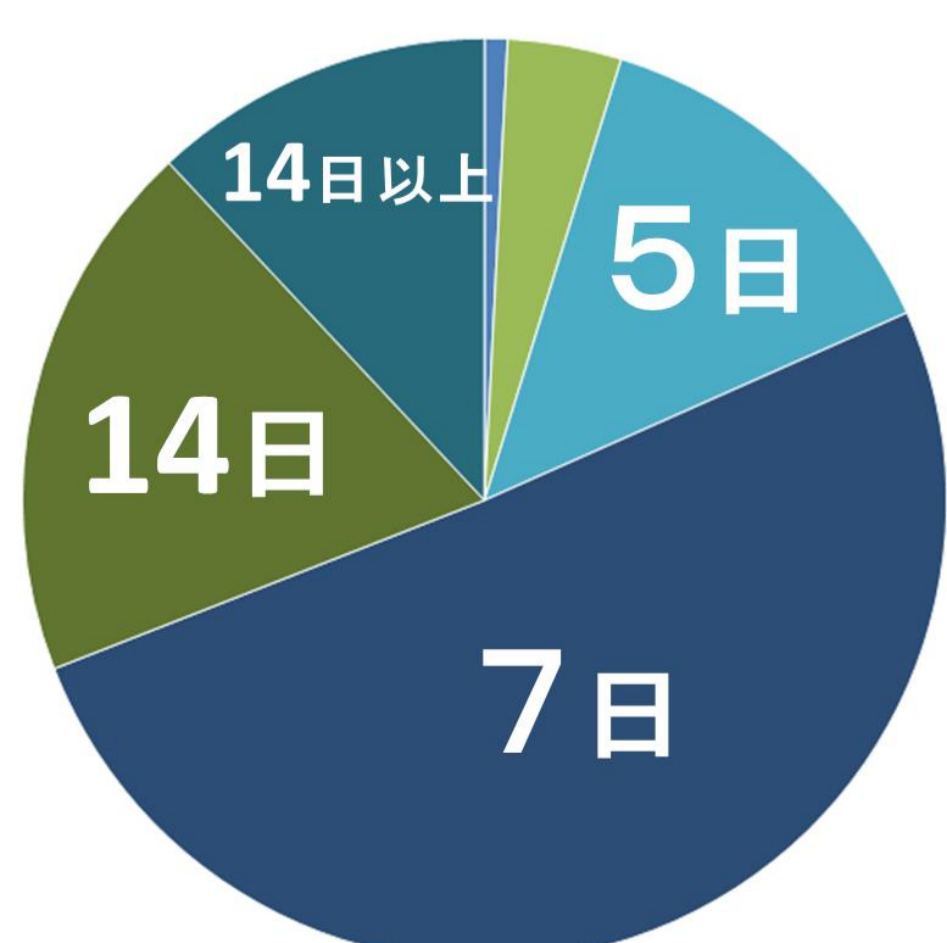
切り花産地は道央と道南に多く、深川市、七飯町、岩見沢市などが大きな産地です。出荷は7～9月に集中し、この時期は地場産の割合が高まります。それでも、生産量の7割以上は道外に向けて出荷され、夏の花の重要な供給地となっています。



## 求められているのは花持ち

切り花の購入金額は年々減り続けています。特に30代以下の若い人はあまり花を買わないようです。切り花をもっと楽しんでもらうためには、消費者ニーズに合った切り花を供給する必要があります。花屋さんへのアンケートでは

「花持ち」に対する要望が強いことがわかりました。さらに、1週間持てば7割の人は満足することも明らかになりました。



自宅用に買った花。何日咲いていれば満足しますか？

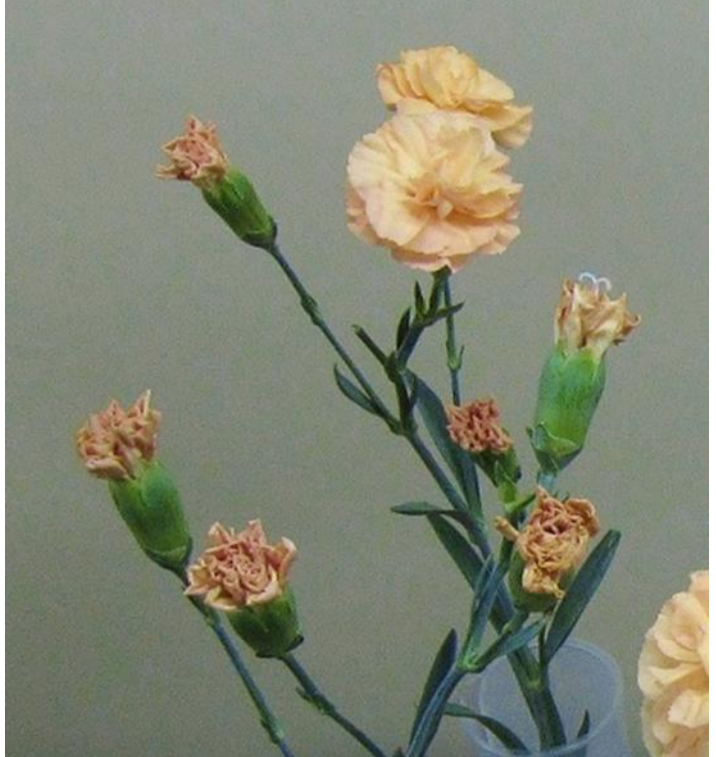
## 切り花が観賞価値を失う要因

切り花は主に①老化、②水あげ不良、③栄養不足によって観賞価値を失います。

①老化にはエチレンという植物ホルモンが関与しています。エチレンによって花がしおれたり、花びらが落ちたりします。

②水あげ不良には、水が吸い上げる量より多く失われて水分が不足する場合と、茎が詰まって水が吸えなくなる場合があります。茎の詰まりは細菌などによって起こります。

③栄養不足は、花が収穫されることで、エネルギー源が断たれて起こります。花が開かなくなったり、色があせたりします。



## 切り花を長持ちさせる技術

①老化を防ぐにはエチレン阻害剤（STS）を使って、エチレンの作用をブロックします。これは収穫後すぐに吸わせる必要があるため、生産者が行います。

②水あげを改善するには、界面活性剤で水を吸いやすくしたり、細菌による茎の詰まりを防ぐために抗菌剤を吸わせます。また、水を生けたままの輸送も増えています。

③栄養は糖を吸わせて補給します。花は大きく咲き、蕾も開き、花の色も良くなります。



## ご家庭では・・・



直射日光の当たらない涼しい場所に置き、界面活性剤＋抗菌剤＋糖が含まれる市販の切り花栄養剤を使いましょう。

また、花瓶は清潔にし、不要な葉や蕾は取り除いておくとより長持ちします。